

アトム・ピースフォー 六十周年を迎えて

原子力利用の未来に希望抱く

アイゼンハワー演説当時 平和利用博覧会に長蛇



アイゼンハワー米大統領が一九五三年十一月八日に行ったアトム・ピースフォー演説の様子

六十一年前、アイゼンハワー米大統領は国連総会で概略次のように演説した。



一九五三年十二月八日、アイゼンハワー米大統領が「Atoms for Peace」と歴史的な演説をしたから六十一年になる。

一九五一年に世界初の原子力発電実験が米国の高速増殖炉EBR-1(100kW)で成功すると、数年のうちに旧ソ連、英国、仏国なども相次いで原子力発電所の建設を発表し、各国で次々と原子力の火が灯り始めた。

大統領は冒頭、「主要各国が保有しているウランと核分裂性物質を国際原子力機関に供出する。新機関はこれらの物質の保管・貯蔵・保護に責任を負うとともに、これを平和目的に役立つように各国に割り当てる」と、歴史的な提案であった。

「核兵器はもはや米国のだけがあるものではない。現在は数カ国しか有していないその知見もいざいざ多くの国が有するものになる。その結果、勿論米国の圧倒的な反撃能力を維持するが、不意に軍事中心に数カ国に限定されていた原子力の研究開発利用が、発電をはじめとする世界各国の平和利用へと広がっていくこととなった。

一九五三年十二月八日、アイゼンハワー米大統領が「Atoms for Peace」と歴史的な演説をしたから六十一年になる。したがってわが国の目標は、人類が恐怖の暗闇から光に向かって進むことを助け、いかなる場所においても、人類の心、人類の希望、そして人類の魂が平和や幸福や健康を手に入れたら、前進できる道を見つけたことである。米原子力エネルギーを、原子力エネルギーから得られる力を平和的に利用することが、未来の夢物語ではないことを知っている。世界の全ての科学者と技術者が、十

奮い立つのである。わが国でもこのアイク演説に心震わせた二人がいた。一人は中曽根康弘、二人は、党派は違っても、国を憂える気持ちは一ひとつ、日本はどう生きたいか、何を成し遂げたいか、形を真剣に考える同志的な信頼関係を持った。前田正男、志村茂治も加わって、一九五五年八月

ジュネーブで開かれた原子力平和利用国際会議に出席し、「われわれの時代はみな戦争を経験している。この会議に出征兵士の意気込みで臨んだ。原子力平和利用を推進する。一九五五年の新聞週間の標語は、「新聞は世界平和の原子力」を選んだ。

アイク演説 60 年を想う

元衆議院議員 後藤 茂

一九五五年の新聞週間の標語は、「新聞は世界平和の原子力」を選んだ。原子力平和利用を推進する。一九五五年の新聞週間の標語は、「新聞は世界平和の原子力」を選んだ。

一九五五年に成立した原子力基本法は、旧首相中曽根君外四百二十一名提出の議員立法など

一九五五年に成立した原子力基本法は、旧首相中曽根君外四百二十一名提出の議員立法など

一九五五年に成立した原子力基本法は、旧首相中曽根君外四百二十一名提出の議員立法など

一九五五年に成立した原子力基本法は、旧首相中曽根君外四百二十一名提出の議員立法など

「核兵器はもはや米国のだけがあるものではない。現在は数カ国しか有していないその知見もいざいざ多くの国が有するものになる。その結果、勿論米国の圧倒的な反撃能力を維持するが、不意に軍事中心に数カ国に限定されていた原子力の研究開発利用が、発電をはじめとする世界各国の平和利用へと広がっていくこととなった。

一九五三年十二月八日、アイゼンハワー米大統領が「Atoms for Peace」と歴史的な演説をしたから六十一年になる。したがってわが国の目標は、人類が恐怖の暗闇から光に向かって進むことを助け、いかなる場所においても、人類の心、人類の希望、そして人類の魂が平和や幸福や健康を手に入れたら、前進できる道を見つけたことである。米原子力エネルギーを、原子力エネルギーから得られる力を平和的に利用することが、未来の夢物語ではないことを知っている。世界の全ての科学者と技術者が、十

奮い立つのである。わが国でもこのアイク演説に心震わせた二人がいた。一人は中曽根康弘、二人は、党派は違っても、国を憂える気持ちは一ひとつ、日本はどう生きたいか、何を成し遂げたいか、形を真剣に考える同志的な信頼関係を持った。前田正男、志村茂治も加わって、一九五五年八月

ジュネーブで開かれた原子力平和利用国際会議に出席し、「われわれの時代はみな戦争を経験している。この会議に出征兵士の意気込みで臨んだ。原子力平和利用を推進する。一九五五年の新聞週間の標語は、「新聞は世界平和の原子力」を選んだ。

一九五五年に成立した原子力基本法は、旧首相中曽根君外四百二十一名提出の議員立法など

一九五五年に成立した原子力基本法は、旧首相中曽根君外四百二十一名提出の議員立法など

一九五五年に成立した原子力基本法は、旧首相中曽根君外四百二十一名提出の議員立法など

一九五五年に成立した原子力基本法は、旧首相中曽根君外四百二十一名提出の議員立法など

一九五五年に成立した原子力基本法は、旧首相中曽根君外四百二十一名提出の議員立法など

人類の繁栄に対する貢献を確実に するための新たな決意を

原子力委員会委員長 近藤 駿介

この演説から六十一年目の今日、原子力発電に携

この演説から六十一年目の今日、原子力発電に携

主要国との対話を直ちに始めたい。しかし、米国の核兵器を兵士の手から取り上げるだけでは十分ではなく、その核燃料物質を平和の技術に活用できる人々に渡したいと

主要国との対話を直ちに始めたい。しかし、米国の核兵器を兵士の手から取り上げるだけでは十分ではなく、その核燃料物質を平和の技術に活用できる人々に渡したいと

主要国との対話を直ちに始めたい。しかし、米国の核兵器を兵士の手から取り上げるだけでは十分ではなく、その核燃料物質を平和の技術に活用できる人々に渡したいと

主要国との対話を直ちに始めたい。しかし、米国の核兵器を兵士の手から取り上げるだけでは十分ではなく、その核燃料物質を平和の技術に活用できる人々に渡したいと

主要国との対話を直ちに始めたい。しかし、米国の核兵器を兵士の手から取り上げるだけでは十分ではなく、その核燃料物質を平和の技術に活用できる人々に渡したいと

主要国との対話を直ちに始めたい。しかし、米国の核兵器を兵士の手から取り上げるだけでは十分ではなく、その核燃料物質を平和の技術に活用できる人々に渡したいと